

WALK RALLY REPORT

10N1135 山口雄司 網野ゼミ

■今回の導入ゼミでは木造建築をメインに回ることになった。他のゼミの多くが近代建築を見るなか、なぜ木造なのか?ということが疑問であり不安でもあった。しかし、そのような不安はすぐになくなつたのであつた。

■まず最初に見た建築物は、東京大学本郷キャンパスにある弥生講堂。これは、最新の木造建築ということだけあって、ガラスを多用した木造とは思えない透明感と軽さがあつた。中に入ると木の香りが気持ちよく、森の中にいるようだつた。

■次に同じ東大内にある弥生講堂アネックスを見学した。こちらも最近建てられたもので、屋根が直線だけで構成された曲線を使用しており独特な形だった。その隣の教室の壁が一面、木の角材を組んだ構造になっており、単にデザイン性を追求した結果ではなく、構造物としての役割を果たしているところがすばらしかつた。



■東大農正門の近くにある本郷館というアパートはなんと木造三階建てであり、千と千尋の神隠しに出てくる油屋を連想させた。

京都の寺院以外でこれほどまで大きな木造建築を見たのはおそらく初めてで、その大きさと古さとゆがみ具合に圧倒された。今でも人が住んでいるため中を見学することはできなかったことがとても残念であったが、この人数で中に入ると崩れそうだったので、入れなくてよかつたのかもしれない。

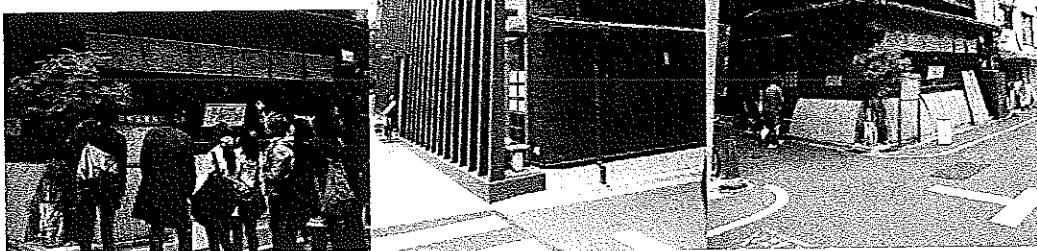
裏から見ると崖の上に建ててあることが分かり、長い年数壊れずに、そして壊されずに残っていることに感動した。後で知れた結果、なんと築105年であることが分かった。関東大震災も空襲も耐えた本郷館は近代建築にはない温かみがあつた。



■はん亭 根津本店は道路拡張のため一部切り取られるという不思議な経歴もつ木造建築だ。

明治に建てられて以来大切に使われており、本郷館よりかなり手入れが行き届いていいと感じた。しかし道路拡張によって切り取られた部分がとてももったいない。近代化なんていらないとおもった

今の安っぽい建築では味わえない色気が感じられた。



■東京に住んでいるが根津に行くのは初めてだった。想像以上に古い木造建築が残されており町全体がいつの時代なのか、どこにいるのかが分からなくなる程だった。そして今昔の木造建築を見て日本の木の文化をもっと大切にしなければならないと感じた。コンクリートの近代建築はどこの国の人でもできるかもしれないが、日本独自の木造建築は日本の気候な文化などを生まれたときから触れ、感性が日本製でなければできないと思う。今回のウォークラリーはそのような新しい発見もあり、有意義なものとなった。

ウォークラリーの感想

網野ゼミ 10N1136 山下航平

私たち網野ゼミはまず、最初に東京大学弥生キャンパス農正門前に集合して、木造建築を見ようということでまず東京大学に入りました。思っていたより綺麗な建物や独創的な建物もありました。木造建築は地面から何十センチかのところはコンクリートなどのようなものにしないと木の部分が変色してしまうということを初めて聞き、また、その例も見ることが出来たのでとてもためになりました。

次に東京大学を出て、TAおすすめのお化け屋敷のような木造建築のアパートを見に行きました。その外見は想像を絶するもので、こんなアパートが東京にもあるのだなと思いました。中身を見ることが出来なかったのはとても残念でした。綺麗ではなかつたけれど一回あんなアパートに住んでみたいなと思いました。

そして次に正面から見たら今風なとてもおしゃれな建物に見えるのに、横は木造建築になっている建物を見に行きました。これも先ほどと同じで中身を見ることができなかつたので残念でした。

この他にも大きくて綺麗な老人ホームや小さい美術館にも行きました。不思議なミラーがあつてずっと見ていたら気持ちが悪くなりました。

今回のウォークラリーで日頃あまり見ることの少ない木造建築を間近で見ることができてとてもおもしろかったし勉強にもなりました。また同じゼミの皆さんと今までより仲良くなれたのでとても充実した一日になりました。自分は昔から木造建築に興味があり自分の家を建てるなら木造にしたいと思っていました。最近エコにも興味があるし、とにかく木の匂いが好きでこれからもっと深く木造建築について知っていけたらいいなと思います。

導入ゼミ ウォークラリー

網野ゼミ 10n1137 山森掌太

僕たちのゼミはOBの方々と東京大学本郷キャンパスからスタートし、本郷、根津、谷中の町を歩きました。網野先生が木造建築の専門だということもあり、町中にある木造住宅を見ました。

～東大編～



←写真は弥生講堂の中。

東大農学部の弥生講堂はほとんど木材で出来ているらしく、中に入ったときにものすごくヒノキの様な木のかおりを感じた。

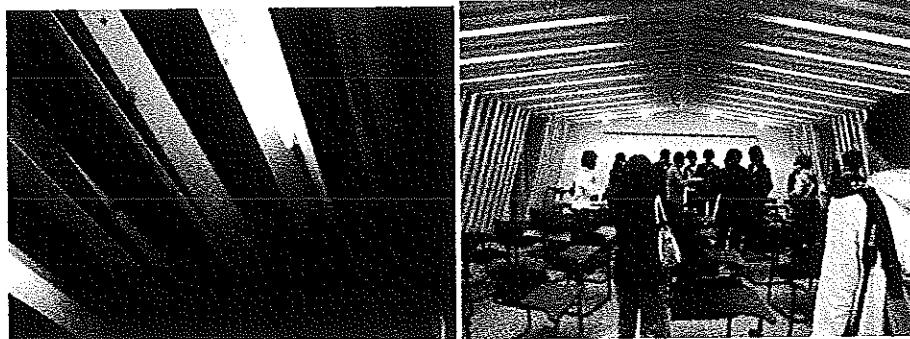
写真に写っている木の柱と鉄？の柱。網野先生はどちらの柱が支えているのかとても気になっていた様子だった。さすが木造専門。

右写真の曲線を描いたような屋根はすべて直線の材料から作られているらしい。曲線を直線で作れるのか想像もつかないし不思議である。このような構造を（確か）HP構造と言うらしく、物理Iを教えてくれた吉田先生もこの事を授業中余談で話していた。



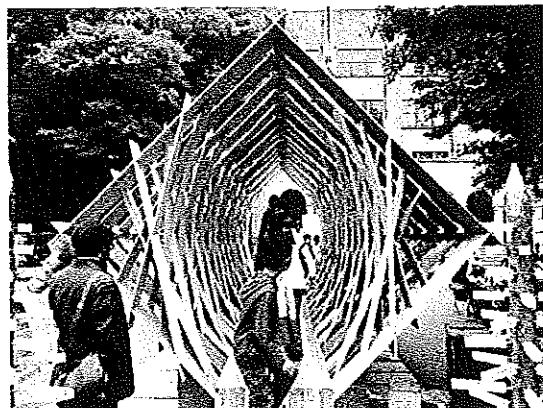
とそのとき、網野先生の先輩が突然現れ、案内してくれた。

写真に写っている木の壁が雨によって変色している。灰色に変色するのは悪い変色の仕方ではないようだ。これを見て、建築は周りの自然環境を常に考えなければならないと感じた。



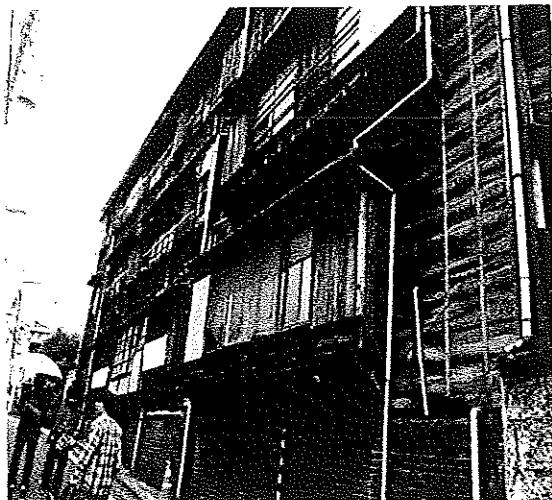
さらに網野先生の先輩の粋な計らいにより、中まで見学させてもらうことに。
部屋の中は木材が交互に重なり合うようなとても印象的なカタチが目を惹いた。
その重なり合った木材のわずかな隙間からこぼれる照明はとても暖かさがある。
とても居心地が良くて、こんな所で授業をしたら先生の話が面白くても眠くなってしまいそうだ。

ウォークラリーを行った日は、ちょうど東大の五月祭で、キャンパスの中に木造で出来た作品があった。
右の写真はそのひとつ。
中を歩くことが出来るようになっていて、
小さな子供に大人気。(もちろん僕たちも楽しく中を歩きました。)



通路のまわりを囲む木材を見てみると、
一つ一つ起こし絵の“ほぞ”によく似たつなぎ方をしていると思った。
それが何重にもなるとスケールが大きく、
見ていて圧倒された。

～本郷編～



本郷の町中に明らかに周りの雰囲気とは異なる建物があった。

この木造三階建てのアパートはいつ建てられたのかわからないほど老朽化していて、（住んでいる人には悪いが）まるでお化け屋敷のようにも見えたし、それと同時に映画に出てくるような凄く味のある建物だと感じた。

このような味は出そうと思って作っても出せないらしい。時の流れによって作り上げられた雰囲気だそうだ。

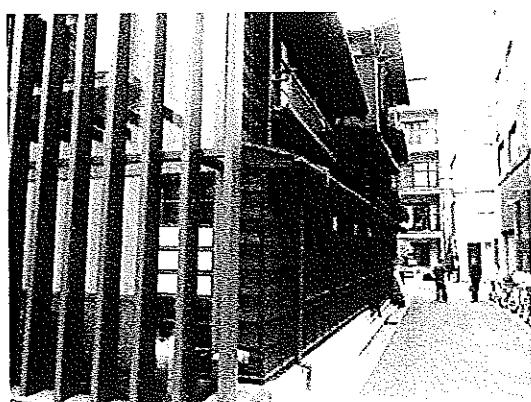
やや離れてこの建物を見てみると更に存在感を感じる。

これほどまで大きくて古い木造建築は大震災に耐えられるのだろうか？僕は無理だと思う。

それにしてもここに住んでいる人はいるのだろうか。まったく人の住んでいる気配が無かったが・・・



～根津編～



こちらの「はん亭」という料理屋さん。区画整備のため取り壊しを余儀なくされそうになったが、取り壊しはせずに、減築という形で新たな姿に変わったそうだ。

そのため古い感じの建物にいきなり新しい壁や扉がついていて新鮮だった。それにしてもそんな簡単に減築できるものなのか？一度取り壊したほうが簡単な気がする。

根津にある老人ホーム。
一見するとまるで旅館のようだ。
周りに植えてある竹などの緑がいい味を出している。
木造と緑は非常にマッチして、心を穏やかにする力があるような気がした。



～谷中編～



おせんべい屋さん。
木造ではないが、たまたまウォークラリー中に見つけたお店。
このお店を格好悪いという人もいたが、僕は“こち亀”に出てくるような下町の匂いがするいい雰囲気のお店だと思った。



そしてウォークラリー最後のポイント、
銭湯風ギャラリー。
外見はどこにでもありそうな銭湯だが、中には「アニッシュ・カプーア」という人の美術作品が並べられている。
正直、僕には作品の良さ、価値はわからなかつたが、銭湯の中をギャラリーにしてしまうという意表をついた発想は素晴らしい。
誰もこんな下町の、それも銭湯の中に美術作品があるなんて思わないだろう。銭湯の昔懐かしい雰囲気と中のモダンな雰囲気のギャップは強烈に印象に残っている。
外国人も何人か見学にきていたが、
アニッシュ・カプーアという人は有名な人なのであろうか？



まとめ

建築の寿命の短い日本には作りやすく壊しやすい木造建築がとても合っている。
忘れられかけていた木造建築を今回のウォークラリーで見直すことが出来た。
今回一番印象に残っているのは本郷の巨大な三階建てのアパートだ。あんなに大きなものを見たことが無かったし、圧倒的に存在感があった。
今回のウォークラリーをきっかけに少しずつ建築に興味をもっていきたい。

10月11日木曜日

ゼミ先生： 綱野

今回のウォークラリー、綱野先生組は、木造建築をテーマにして、東京木造巡りを一周しました。

最初、木造という言葉を聞いた時、古くい建物のイメージしかなかったけど、今回のウォークラリーで、今までの固定観念を全てひっくり返された。かつて、日本は世界一の木造技術を世界に誇ったけど、戦後、コンクリートブームに乗り、木造はいつの間に、コンクリート建築に追い越されて、たくさん取り壊された。

だけど、今はエコロジーが全世界にだんだん重視され、木造はまだ復活されました。この古代の知恵を凝縮された技術は、現代の色を加えられて、もう一度、斬新の面貌をみんなの前によみがえた。

最初に参観したのは、東京大学農学部の弥生講堂です。その講堂は木質構造による、HPシェル構造です。見た目の色、すごくキレイです。足を中心に運ぶと、自然の匂いが満たされていて、とても癒しの空間なっています。ずっとコンクリートで活きてきた私にとって、本当に最高の体験でした。

その後は、根津に移動して、そこに歴史の長い木造建築をたくさん見ました。一番印象に残るのはくし・あげ・どころ はん亭 本店です。その店は大正6年築の歴史を感じさせる木造三階建てです。そこにいると、本当に時空錯乱されちゃいます。

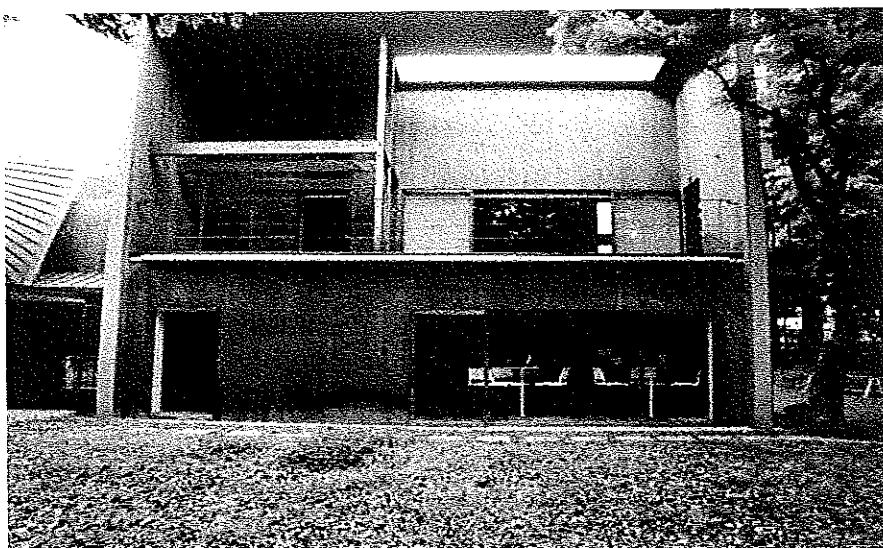
その次、根津にある、200年の歴史を持つ由緒ある銭湯「柏湯」を改装して、1993年にオープンした現代美術ギャラリーへ行きました。ここも結構衝撃でした。なぜというと、普通銭湯と美術ギャラリーはまったく繋がりのないものを、うまく変身されました。こんな建物と内装から、妙に不思議な雰囲気、本当にすごいです。やはり建築は固定観念を捨てるべきだと思います。

今回の木造巡りは、いろいろ考えさせました。これから、地球を守るためには、自然の力を借りらないといけない、木造技術はこれからどうやって活かして地球を守り続けようか、それは我々建築を学ぶ人の使命です！

「ウォークラリーの感想」

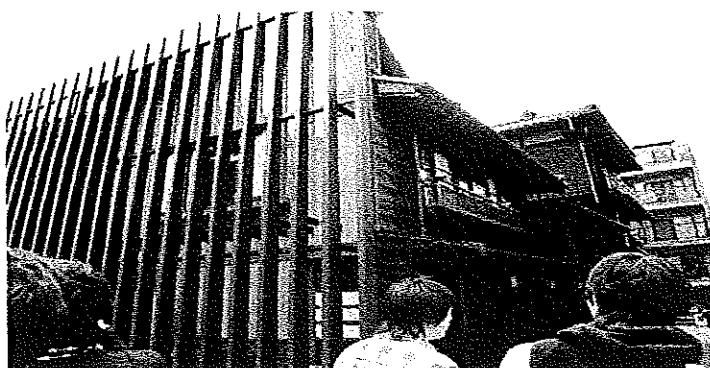
10N1139 吉武 隼一 網野ゼミ

自分たちは、東京大学付近の建築物を中心に見学しました。そのある建築物はどれもとても魅力的でした。東大の教授が自ら設計した建築物を丁寧に説明してくれて自分の今後にとっても役に立ちました。見学した建築物のうち印象に残った建築物がいくつかありました。そのうちの一つが下の写真です。



建築物は通常、雨の影響で木材が痛まないように地面から2~3cm離して設計するなんですが、この建築物に使われている木材は雨の影響を受けにくい素材を使っているから大丈夫だという憶測のもと設計して建てたところ、完全に木材が痛んでしまっているという失敗例でした。しかし、こうした失敗例を見ることができたのもまたとてもためになりました。

次に印象に残った建築物が下の写真です。



この木造建築は表の設計と裏の設計が異なっているんだと感じました。表の幾つもの柱がとても印象的でした。このような木造建築は、なかなか身近では見ないのでとても貴重な体験ができました。自分もこれから建築物を見るときは、どんなところに工夫がされているのかなど注目したいです。

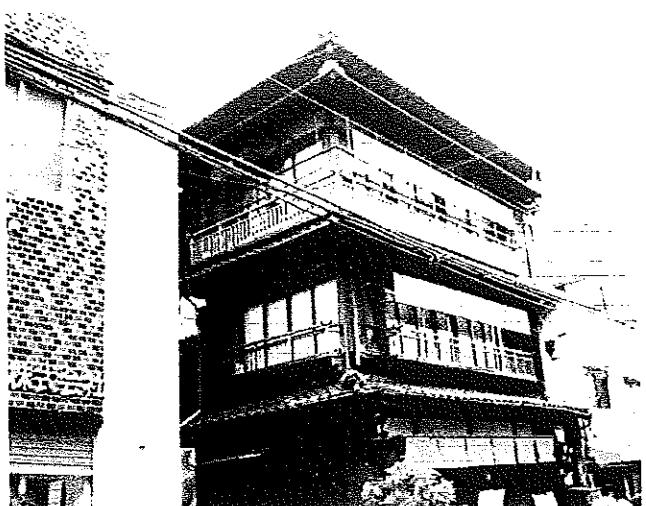
ウォークラリー 感想レポート

10N1140 吉野滉己

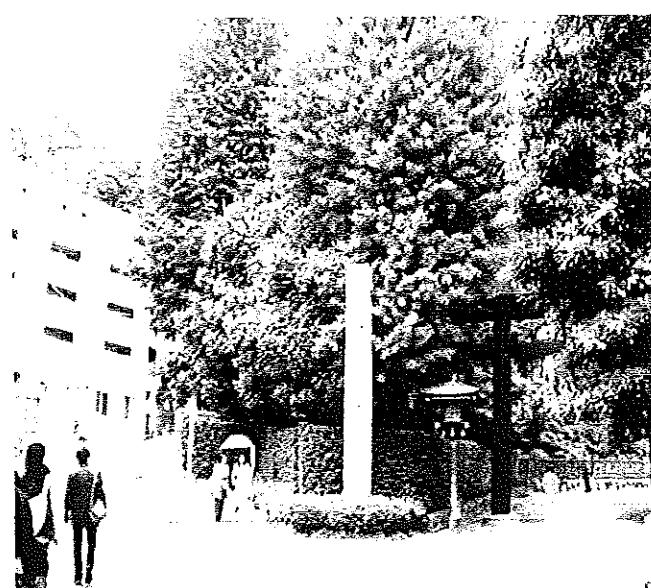
ウォークラリーの感想レポート



印象に残ってる建物3つを取り上げます。まず、最初は大通りの裏にあった木造3階建の建物。これは最初見た時、ジブリの「千と千尋の神隠し」みたいだと思いました。今の時代にもこういう建物があるんだなあ、よく崩れないで建っているなあ、どうなっているんだろう、と自分で木造の建築の構造に興味が持てるようになる建物でした。これからもっと専門的なことを学んでいってみたいと思いました。



次はこの建物です。これは普通に大通りに面して建っていたんですが、正面から見ると大通りにあっても全然違和感がないのに、横や後ろから見てみると、まるでそこだけ時代が変わっているのかと思うくらい周りと違っていました。自分的には、このように周りが近代的な建物になってきても、それに巻き込まれずこのような木造のままいるのはとてもすごいことだと思い、印象深かったです。



最後にこれです。ウォークラリーでゆういつの後悔しているものです。この神社は、予定では回るはずだったのに時間の都合で回れなくなってしまったのです。自分は神社の落ち着いてぼーっとできるような雰囲気が好きなので、前から楽しみにしていたのに行けなくなってしまったのはとても残念で仕方ありませんでした。しかし、TAさんにこの神社の特徴などを教えてもらったので今度1人でいいので、ゆっくり行ってみたいと思います。今回のように普段、建物をゆっくり見て歩く機会なんてなかつたのでとてもいい経験になりました。

(×イクが無くて色がおかしくなって
ほいました。)

ウォークラリーを通して

10n1141 吉野 雅俊

5/29日に行われたウォークラリーの天気はあまりよくなかったが、貴重な一日になったと今では感じる。終わった後の足の疲れや疲労感がその時の過酷さを物語る。

まず、私たちのテーマは木造建築と言わされた。これは導入ゼミの先生：網野先生が木造建築を専攻しているからというものだった。その為、見に行ったものは大体が木造の建物であった。

最初は、集合場所が東大門前だったので東大の中にある木造の建物を見ることになった。しかし木造を見てもあまりすごいとは感じなかった。が、次々と見ていくうちに段々と歴史を感じてすごいと思うようになった。それは次に見たものすごく古びた感じの3～4階建ての木造だった。そもそも、木造では3～4階建てにするのは難しいらしい。だからかもしれないが、余計にすごいと思ってしまったのだろう。このすごさは実際に見た人にしかわからないと思う。この時、写真じゃなく建築は実際に見に行けど先生方が言っていた意味がわかった。このあたりに坂が多かったので足が痛くなったのかもしれない。

最後には銭湯に行った。何故銭湯に行ったかというと、その中で特定の期間だけやっている展示品を見に行った。これは木造ではないのだがそこに行くまでに木造の料理屋を見てその銭湯に行った。銭湯の中にあった展示品はずっと見ていると酔ってしまうような変なものだった。

帰りはぐるっと回って帰ってきたのだが、そこでも坂が多かった。こうして田町校舎のカフェテリアに着き、班のまとめを各班発表していたのだがほかの班は表参道や青山、原宿などオシャレな場所に行っていて、最初はうらやましいと思ったのだが、そんな所はプライベートでも行けるので絶対に普段行かない東大や銭湯などに行けて今ではよかったと思う。これで導入ゼミは終わってしまうが、いつかここで見て学んだ事が何年後かに活かせるように日々精進したいと思うし今ではわからない事もわかるようになっていればなあとも思う。

導入ゼミ

デザイン工学部建築学科1年 10n1142 米澤佳央

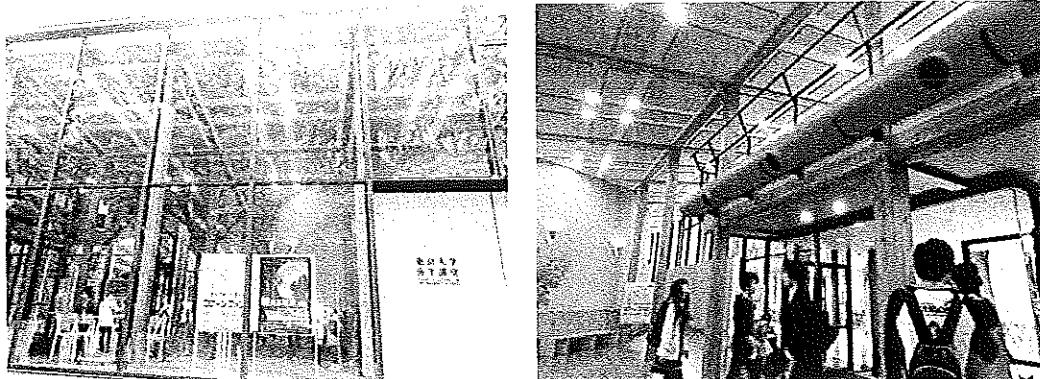
(網野ゼミ)

今回のウォークラリーでは、東京大学などがある本郷や根津近辺を歩いた。網野教授が木造専門なので、ウォークラリーでは木造建築物を中心に見て回った。大きな道路には車両がたくさん走っているが、道を一本中に入るだけで静かで落ち着いた雰囲気の所であった。このウォークラリーで行った所を示したものが次の地図である。



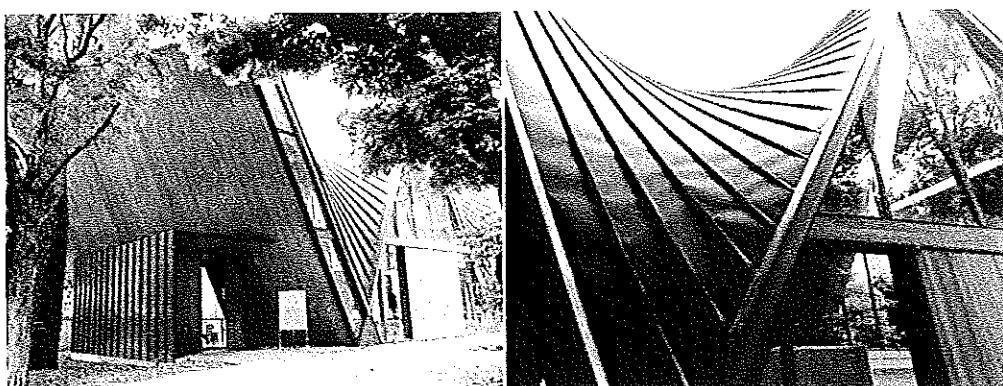
東京大学農学部正門前に集合し、まず東京大学の中にある建築を見た。

●弥生講堂

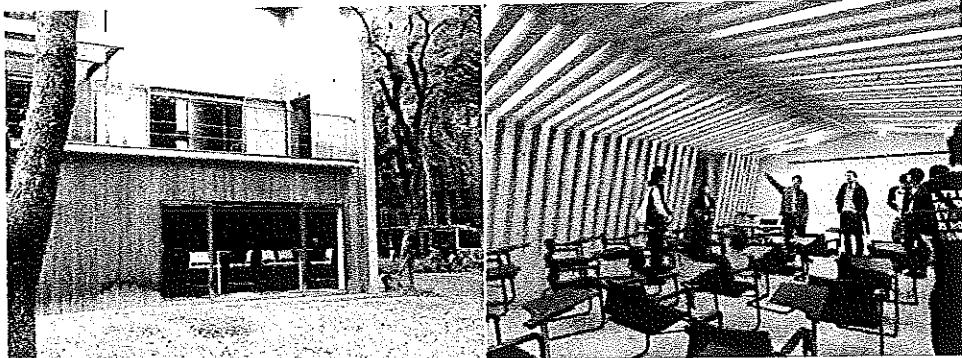


木材を多く、また目に見えるように使われているため、とても暖かみのある建物だった。網野教授が、鉄の柱と木の柱が近くにあるため、本当に木造建築と言えるかどうか（木で支えているか）は怪しいと話していた。

●弥生講堂アネックス



この建物は網野教授の先輩が建てたもので、建物の中に曲線のように見える部分があるが、実は真っ直ぐな板を使用しているようで不思議な感じがした。網野教授が先輩の作品に屋根に溜まる雨水について指摘をしていた。



この建築物も先ほど紹介したものの隣にあり、特別に改良された木材が使われている場所である。普通木材を使う時は、回りにワックスをつけて木がわれるのを防ぐが、ここで使用されている木材は中心部分を抜いてわれないようしている。

この建物の外壁が3層に分かれているのが写真を見てわかると思うが、屋根の長さや雨水などの跳ね返りによってできるものであると教えてくださった。

東京大学を出て、近辺を歩く。

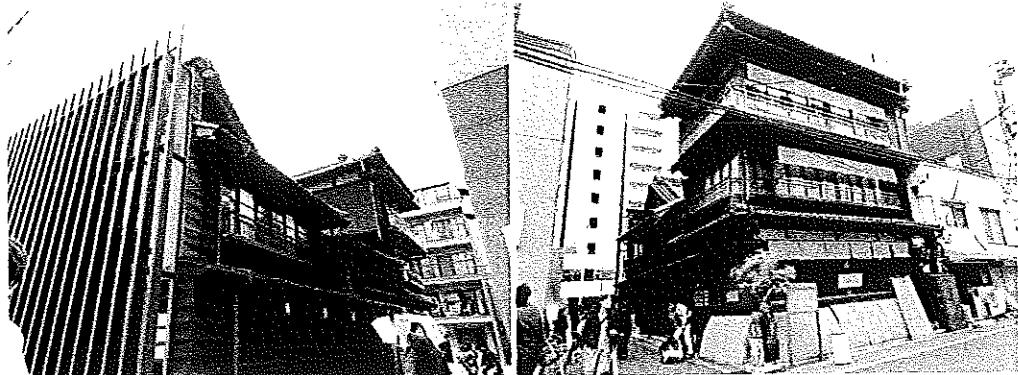
●とてもとても古い家



木造建築の3階建て。とても古く、ぼろぼろで、住んでいる方がいるにも関わらず「お化け屋敷だ」と勝手に言っていた。昔は木造で3階が建てられたことはとてもすごいことであり、今も実在していることは珍しいこと。今では木造でもっと高い建物を建てられるようになっており、技術が進んでいることを実感できた。

坂を下り、根津の方へ。

●料理屋



そば屋だと思っていたがはっきりと言える自信はありませんいため料理屋とした。この建物は現在の歩道まで建物はあったのだが、道路拡張のために建物の一部をなくさなければならなくなつた。そのためおかしな形をしている。これも古いもので、裏側は本当に風情のある建物である。

次の目的地、銭湯に向かう途中で…



右から高齢者施設、せんべい屋、マンションである。

同じ地域なのに全く違う雰囲気が感じられる。

●銭湯 SCAI THE BATHHOUSE



これは昔銭湯だった建物を今ではギャラリーとして使っているものである。外見は銭湯であり、中の下駄箱はそのままの状態で残されているなど、昔と今が融合されている建物だった。

帰り道…



青い屋根のお寺…古いパン屋（？）…根津神社

ウォークラリーを終えて

東京でありながら、現代的なものと古いものがあることに改めて気づき、またそのようなものを見るという楽しさ・おもしろさがわかった。教授やOBの方のお話が聞けて、とても良い経験となった。根津近辺は古いものはとことん古く、そのようなものがいくつもあり、静かな地域だからまたそれが合っていたと思う。今回のウォークラリーで街を歩いているときのものの見え方が少し変わった気がした。

ウォークラリーレポート

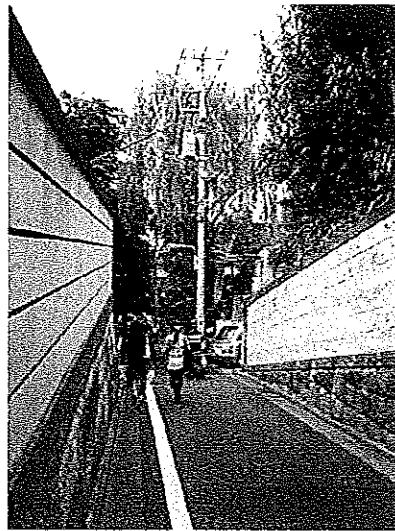
10N1143 渡邊将太

今回網野ゼミでの初めての見学ということでのウォークラリーですがまず初めに東大に行きました。

その東大の弥生キャンパスについてこのレポートで書きたいと思います。東大はやはり日本一の大学だけあってものすごい風格があり、驚きました。そしてこの5月29日はちょうど東大が5月祭があり、とてもにぎわってたでしょう。ついでに足を運んでみたかったものです。私たちが集合場所にした弥生キャンパスは農学部が入っており、農学部正門を入って右手が農学部1号館で入って左手が農学

部2号館で1号館と対になっています。そこに建築的に魅力のあるものになっていると思いました。そして門に入って奥に農学部3号館があり、前右左にうまく3つの建物がうまく並んでいます。その構造が東大のすばらしい風格をかもしだしているのかもしれません。

網野ゼミはA期だけで終わりになってしまいますが、先生のためになる話などを聞いてさらに建築は奥が深いことを知りました。縦は思ったより短く、横は思ったより長い。これはいい経験になりました。ありがとうございました。



建築学科ウォークラリー 2010年5月29日実施

網野ゼミ 10N1144 渡辺裕平

私たちはまず13時に東京大学弥生キャンパス農正門前に集合しました。



① 今回のウォークラリーのテーマは「木造建築」という事で新しい木造建築から古い木造建「本郷館」というアパートみたいな建築がありました。傍から見るとただのボロ家のように見えますが、こんなに大きい木造建築というのは初めて見ました。裏からこの建築を見ると、崖の上に建っているようでものすごくインパクトがありました。



またもう1つ古い木造建築で印象に残ったのが町のとある駄菓子屋?みたいな建築です。この駄菓子屋の周辺にはいくつか昔からあるような建物があったのですがこのお店はひと際昭和を匂わせるような雰囲気があつたためその店の周りだけ空気が違っていました。この横には大きな木が店を覆うような形で立っていてそれがまた獨特な雰囲気をかもしだしていました。



新しい木造建築で印象に残ったのは東京大学内にある「弥生講堂」で私が思っていた木造建築の考えがガラッと変わりました。まず、私が「弥生講堂」を見て最初に思ったのが、「これが木造建築なの?」と思ってしまいました。外から見た感じはあまり木造建築を思わせない風貌でしたが、中に入ると木のいい香りがしてきてそれは紛れもなく木造建築でした。建物の中にさらに講堂が入っており、そこにはまた別の空間が入っていました。また、その隣にあった「弥生講堂アネックス」という建築で私たちにはまだあまりわからないなと思いました。木の組み方もすごく印象的で、どうしてあのような組み方をしているのか詳しく知りたかったのですが、それはできず。それは私がこれから建築を学んでいくうちに知れたらいいなと思っています。



そして特に私が興味を持ったのが、「はん亭 根津本店」の建築で、そこは道路を造る影響で家を大胆にカットして、そこに新しく壁を作るというとても斬新な建築だと思いました。正面から見るとかなり洒落た料理屋だと思ったのですが、少し回って側面を見てみるとまったく違う建物がそこにはありました。あれはまさに今と昔の融合でも言える建築だと思います。そこの料理はとてもおいしいのだそうです。網野さんから聞きました。



このウォークラリーを通して私が感じたことは、木造建築というのは私が今までに思っていた以上に深く、そして人にも地球にも優しい建築だということです。私は理想の家を建てるといつたら鉄筋コンクリートの家を想像していましたが、今回ウォークラリーを通して現在流通している鉄筋コンクリートの建築と木造建築との融合というのを考えるようになりました。網野さん最高です。